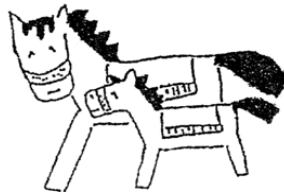


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

26年 9月 NO. 238



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		9月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
9月 6日	土	体験保育 10:00～11:30	同じ年齢のクラスに入って 一緒にあそびましょう。
9月 19日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「秋のお知らせを届けます」をテーマに 大型紙芝居やパネルシアターなどもあります。
9月 20日	土	体験保育 10:00～11:30	出産予定の方も育児体験に おいでください。
9月 24日	水	健康育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科医）にゆっくり相談できます。 (要予約)
9月 24日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	夕映えの会代表 藤田浩子氏のお話を聞き フリートークします。

※<お知らせ>※ 9/27（土）の手品教室は、都合により10/4（土）になりました。
ロープを使っての手品をしますので、どなたでもおいでください。

・火～土の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集④
空のかあさま・下より

騒ぎのなかに、裏山の
蝉せみのなくのがきこえるよ。

あそこは、鬼きめしているな、
あんなに、びくびくしていたが、
みんなはじめてしまったら、

知らぬかおして、片かげで、
地面じべたに汽車を描いている。

あんな組や、あの子が大将だし、
あんな組や、いれてはくれまいし、
「城取りするもな みな来いよ。」
「ため鬼するもな みな来いよ。」

おひる休み



今月は、群馬の保育士さんと保健師さんの文章をご紹介します。

● I. 大人が手本となるよい環境について

関東短大こども学科教授 森 静子さん

朝起きて新聞を取りに・・・「あれ！」。前の歩道の草がきれいになくなって
いる。どなたがきれいにしてくださったのか。そう思って歩道の先を見ると、
かがみながら黙々と歩道の間に見える草を取っている人の姿があった。

子どもは、周りの環境の中で育っていく。人間ほど環境の影響を、こんなに
受ける動物もいない。例として私たちが使っている群馬弁。学校で教えてもら
ったわけではない。赤ちゃんの時から、周りの人が自分にかけてくれる言葉を、
自然と自分の言語として獲得したからしゃべっているのである。車で1時間も
走れば隣の県。県境を越えると、言葉の違いを感じる方は多いと思う。たかだ
か1時間なのに。猫や犬や鳥は、県境を越えても鳴き声は変わらない。

幼児期に獲得する能力は膨大である。幼い時に、人としての基礎力を身につ
ける。愛情とともに・・・。体験が言葉と結びつく時間を、子ども達は過ごし
ている。だから「仲良し」も最初から知っているわけではない。仲良く過ごす
家族の心地よい体験があればこそ、友だちとも仲良くできるのである。「仲良し」
という言葉は、体験を通して経験となり記憶される。

夏が終わろうとしていたころの3歳児クラス。先生が「海は大きいね！波が
寄せたり戻ったり、お水がいっぱいあって」と話していた。海に関する紙芝居
の後である。子どもたちは、素直に「うん」とうなずいている。でも、全員が
本当に海を見たことがあるのだろうか。今までに見たこともない見渡す限りの
水の様子を・・・。

親たちは忙しく働き、連れて行きたくても費用や時間の都合で、まだ海水浴
に行っていない家族もいる。記憶に残る体験・本物を見る時間を与えられてい
ない子どももいるのである。その子にとって「海は、大きいね！」の感覚は経
験にない。

大人の勝手な思い込みで「このぐらいは知っているだろう」と話し出す。小
さな胸は「うん」とうなずくしかない。だって、生まれて3年しかたっていない
のだから。去年はまだ2歳。行ったとしても記憶には残っていない。

子どもたちの育つ環境は、自分では選べない。できる限り心と体が育つ環境

を整えてあげるのが大人の責任である。環境の中に物的環境と人的環境がある。人的環境にお金はかからない。子どもを取り囲む環境の一部として、捨てたものではない大人の姿を見せていくことは大切な経験となる。

朝早くからの歩道の草取り。「自分の健康のため」と謙虚に語られていた。環境によって育てられる動物が人間である。「体験」を「経験」に積み重ねている子どもたちに、心に届く大人の姿を、身近にいる環境として提供したい。

～プロフィール～



立正大大学院修了。高崎、前橋の私立保育園で32年間保育士として勤務。元県保育士会長。2004年から現職。短大生向けの教科書の執筆もしている。



Ⅱ. 乳幼児が噛んで飲み込むという口の中の変化について

ゆう地域支援事業団代表 町村 純子さん

「よく噛んで食べていない」「噛んだものを飲み込まないで口にためる」「早食い」「食べるのに時間がかかる」「ちゅくちゅく吸うようにして食べる」など、保育園の先生からは、からだの相談とともに、食べることへの相談も少なくありません。ところがお母さんからは、離乳食の時期を過ぎると、食べることへの相談は少なくなります。というのは、食物がどのような状態でも、からだに入っていくことで安心してしまう傾向にあるからだと思います。

口は最初の消化器官です。上手に機能できることが大切です。食べる機能は離乳食で形成され、その後の幼児食（1～2歳）で完璧にしていくと言われていきます。口の発達には順番があります。最近では、乳児からストロー付きの水筒を見かけますが、幼児前に使い始めると哺乳瓶と同じ吸い方をするので、食べる、しゃべるという口の発達を阻害する要因の1つになるのでお勧めできません。食べる行為は①食べ物を取り込む・・・口唇を閉じ、食べ物を取り込む。前歯で噛み切る必要があるものは、この時に行われます。②そしゃく・・・舌で歯まで運び、そこで噛み砕き、すりつぶしながら、消化液でもある唾液と混ぜていきます。この時に、口唇を閉じ、頬の力も使い、そしゃくが行われます。

③飲み込む・・・そしゃくが繰り返され、飲み込むまでの形にまとまったものを、口唇を閉じ、舌の奥が上顎の奥と付き、一瞬息をとめて、のどの機能を使って飲み込みます。

食べる行為は口の機能だけでなく、姿勢、首から背、胸などの筋肉のバランス、呼吸の安定など、からだ全体と関係します。

上手にたべられないということは、「発音が不明瞭、滑舌の悪さ」にも関係してきます。

また、前岡山大学小児歯科の岡崎好秀先生は「食中毒や伝染病にも関係する」と指摘しています。食中毒の菌は、食物を通じてからだの中に入ったとしても、本来は死滅してしまいます。胃で分泌される胃酸がPH1～2の強酸なので、例えばコップ1杯のコレラ菌に胃液を1滴落とすだけで、瞬時に菌は死滅してしまうというのです。

ところが、「十分に噛めていなければ、食物の中に菌が残り、胃液に触れにくい環境となり、菌は死滅できない」と岡崎先生。また「良く噛めないで、食事時に水分を多量にとる傾向があり、胃液が薄まり、殺菌されない可能性がある」と付け加えています。

このことから、お子さんの食べ方に気を付けなければならないと考えます。機能をつくるには、硬い食べ物でなく、どこに原因があるかを知り、舌、口腔内、顔、首～背中などのマッサージ、食器の選択、機能に合わせた食形態で支援することが近道でしょう。

～プロフィール～



大間々町保健師を20年。ゆう地域支援事業団設立（相談・講演・研修・出版・児童発達支援）。有限会社まちむら設立（介護保険事業）。群馬大保健学科非常勤講師。

上毛新聞・朝刊より

